

平成 2 8 年 1 月 2 7 日

第 4 回 愛西市立小中学校適正規模等検討協議会
会議録

第4回愛西市立小中学校適正規模等検討協議会 会議録

開会日時 平成28年1月27日(水) 午前10時00分
閉会日時 平成28年1月27日(水) 午前12時00分
場 所 愛西市役所八開庁舎 第1会議室

- 出席委員
- | | |
|-----|-------|
| 会長 | 伊藤 勝康 |
| 副会長 | 伊藤 正憲 |
| 委員 | 水谷 朋和 |
| 委員 | 森 智恵美 |
| 委員 | 田中 智治 |
| 委員 | 宇野 明美 |
| 委員 | 中野 義治 |
| 委員 | 水谷 瀧男 |
| 委員 | 伊藤 尚美 |
| 委員 | 三輪 義治 |
| 委員 | 渡邊 佳子 |
| 委員 | 猪飼 常雄 |
| 委員 | 五島 直和 |
| 委員 | 中田 貴士 |
- 欠席委員
- | | |
|-----|--------|
| 副会長 | 千賀 浩司 |
| 委員 | 原田 大栄 |
| 委員 | 服部 英生 |
| 委員 | 佐藤 有見子 |
- 事務局
- | | |
|-----------|-------|
| 教育長 | 加藤 良邦 |
| 教育部長 | 石黒 貞明 |
| 学校教育課長 | 田中 亮長 |
| 学校教育課課長補佐 | 森田 圭一 |
| 学校教育課主事 | 伊藤 公亮 |
- 傍聴者
- なし

■ 次第

1. 開会

2. あいさつ

3. 議題

- (1) 次代を創造する学校像について
- (2) 地域懇談会について（総括）
- (3) 協議会の今後の取り組みについて
- (4) 学校づくりの基本的考え方について
- (5) 次回（第5回）協議会開催について
- (6) その他、意見交換

4. 閉 会

【事務局】	ただいまから第４回愛西市立小中学校適正規模等検討協議会を始めます。 本日は、傍聴人はございません。また、千賀浩司副会長、原田大栄委員、服部英生委員、佐藤有見子委員より欠席の連絡がありましたので報告させていただきます。なお、事務局の神田直也教育部次長は公務のため欠席とさせていただきます。 はじめに会長の伊藤勝康様より挨拶をいただきます。
【会長】	(会長挨拶)
【事務局】	ありがとうございました。 次に、「３．議題」でございます。ここからの議事進行は、伊藤会長にお願いします。
【会長】	では、次第に基づきまして議事を進行していきます。 なお、本日の議事録署名者は、中野義治様と水谷瀧男様にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。 (１) 次代を創造する学校像についてです。 学校の適正規模を考えるうえで将来どのような学校像を描くのかを考えるのは大切で、地域懇談会でも意見が出ており、基本的な認識を持って協議していくための再確認のために資料を出させていただきました。 (検討協議会資料の１「次代を創造する学校像」を説明) それでは(２)の地域懇談会総括を進めます。総括をしながら今後の取組を共有したいと思います。 この度の地域懇談会のアンケートによると、全体で適正化が必要と考えている方は５４．４％、不必要の方は３０．４％で、半数以上の方が適正化は必要と考えているようです。特に児童生徒や学級数が少なく、今後も減少見込まれる八開地区では７０．４％、立田地区では５４．５％でした。また、学校間で児童生徒数の差が大きい佐屋地区では４５．５％、佐織地区では４２．１％の方が何らかの形で適正化を望んでいるようです。反対に適正化は不必要と考えている方は、佐屋・立田・八開地区は２２～２７％位になっており、佐織地区では４７．４％でした。 各会場で様々な意見が出ております。これを協議会としてどのようにまとめていくかを考えていきたいと思えます。地域懇談会で意見を出していただいた方をもって地域の総意とするのは問題があるという意見も出るかと思いますが、ただ、このアンケートの意見も地域の声として受け止める必要があります。ここで地区ごとの委員に分かれて各地区の意見について総括をしていただき、

	今後の課題と対策について協議をしていただきたいと思います。 (各地区にて協議)
【会長】	まず佐屋地区ですが、アンケート結果では適正化が必要と考えている方が多い結果でした。適正化の手法として学校の統廃合、通学区域・通学方法の見直しが出ていたように見受けましたが、どのような協議結果になりましたでしょうか。
【委員】	佐屋地区では学校の適正化について関心がない方が多いのが現状かと思います。アンケート結果の適正化が必要と回答しているのは、佐屋地区に限ったものでなく市全体で適正化が必要と考えているのではと推測します。ただ、永和中学校区は部活等の関係で、生徒の人数が増えるように割り振ってほしいという意見があります。佐屋中学校区の東側が永和地区に近いと思うのですが、ただ、この地区も人口が少なく校区を割り振っても意味がないと思われます。 永和地区は児童生徒数は今後も横ばいでしたが、佐屋西小と市江小は特に減少が進むのでこちらが適正規模の問題になってくるのではないかと思います。佐屋西小は佐屋小から分かれたので、少なくなったら佐屋小に戻しても良いという声を私の周りでは聞いたことがあります。
【会長】	ありがとうございました。続いて立田地区に移ります。適正化が必要と考えている方は54.5%、不必要は27.3%でした。今後は学校の統廃合と通学方法の検討が必要と感じている方が多いように思いますが、どのような結果でしたでしょうか。
【委員】	やはり統廃合が必要だと考えています。しかし、どこまで実現可能なのかという具体的な指針が示されていない。その指針が決まれば実現に向けた手段が決められ、より具体的な話が進められるのではないかと思います。 八開との統廃合という点では、地形的に使用校舎や通学方法の問題があります。また、立田と佐屋、八開と佐織で学区を無視しての統廃合を進めても既存施設の使用なのか、新施設建築なのかの問題や通学方法の検討が必要です。他にも学校だけでなく、PTAや地域コミュニティーとの調整も必要になるかと思っています。
【委員】	この協議会が進展していないと感じており、やはり早く具体的な方策を決める必要があると思います。立田では具体的に福原分校の問題があり、立田南部と一緒にしないと学校が成り立たないと思っています。色々な意見が出ていま

	すが、先の事を考えるとはっきりした指針がそろそろ必要だと思います。今後は人口が減る一方で、八開でも同じ問題を抱えています。母校が無くなるのがつらいという方もいるが、それでは前に進まないで今までの考え方を捨てる必要があると思います。
【会長】	次の段階に進む意思は委員の皆様共通だと思いますが、進めるにあたり、地域の声をどのように受け止めていくのかが問題かと思います。基本計画策定はこの協議会から教育委員会へ答申をし、教育委員会が素案を作成するのですが、この過程で地域の意見を反映させる必要があります。次の段階に進むにあたり、この地域懇談会の結果を持って地域の総意とするには数が少なく、迷っているところです。現在、当協議会で答申を出せる状況にあるのかも疑問に感じております。他の自治体では「地元代表者協議会」をつくり地域の要望をまとめて協議会に出すというものもあるようです。今後の地域意見の収集方法も検討していかなければなりません。
【委員】	立田地区ではスクールバスの導入があれば統廃合は可能だという意見がありますが、財政的に導入できるのかが問題になってくる。やはり、スクールバス導入が不可能なら統廃合は難しいと思いますし、具体的に何をどこまでできるのかの裏付けが必要かと思います。
【会長】	具体的な適正化の条件や財政面の判断材料が必要だという事かと思いますが、地域の方がどのような判断材料が必要かを集約することが今後必要かと思います。集約でき次第、当協議会や事務局にあげていただくと良いと思います。次に八開地区お願いします。
【委員】	八開地区では開治小の１年生が９人で先生方も問題意識を持っていますが、担任は工夫をしながら対応してもらっています。子どもたち一人ひとりを見るという視点では、やりやすいのかなと思います。人間関係の面では気になります。八開地区の地域懇談会は７０％以上適正化が必要としています。参加人数が３０名程ですので、地域全体でどう考えているのかを捉える必要があります。広く意見を吸い上げる方法を考えなければならないと思います。また、適正化の具体的な方法が見えてれば意見の出方も変わってくると思います。
【委員】	愛西市全体の将来を見て考えると、大きな規模で適正化が必要です。八開だけ、立田だけでは人口が少なく、将来また同じ問題が出てくる。新しい校舎を建てるなら５０年後を見据えて計画をしなければならない。スクールバスを使うにしても学校数が多いと効率が悪いので、広い範囲で適正化が必要なのでは

	ないか。
【委員】	先ほど1年生が9人でやりやすいという少人数のメリットが意見として出ましたが、人数が少ないので先生の負担が少ない、一人ひとりの個性を活かせるなどあると思いますが、具体的な意見はありましたか。
【委員】	先生としては生徒が少ないと事務量が少ないので助かるという点もありますが、何より子どもたち一人ひとりが良く見られるという点が大きいです。特に1年生の体調不良や登校渋りの状況を早くつかめるのは非常に助かります。
【会長】	少人数には良いところもあれば、問題点もありますのでどこに焦点を合わせるのかによる難しい課題であると思います。 続いて佐織に移ります。
【委員】	アンケートの結果を見ると他の地区とはちょっと違う結果で、学校の統廃合について切実な問題ではないという認識が多いのかなと思います。地域懇談会の参加者はご年配の方が多く、これから子育てをしていく若年層の参加が少ないようでしたが、子どもたちの将来を第一に考えて欲しいという意見が多くありました。 少子化問題について子供が減っていくことに対する対策ではなく、愛西市の人口を増やす対策をしていく必要があるという意見も印象に残りました。 他の地区でもありましたが、具体的にどの学校を統廃合するかを提案したりすると活発に意見交換ができるのではないのでしょうか。
【会長】	各地区の意見をいただき、今後の課題が見えてきました。これを受けて次の議題（3）協議会の今後の取り組みについてを進めたいと思います。 現在のところ、地域の意見について捉えきれていない状況にあると思いますので、PTA アンケートや地域懇談会がありましたが、今後の地域の合意形成の手段について意見をいただきたいと思います。学校については校長会など機会があると思いますが、総代の方についてはどのような機会がありますでしょうか。今後適正化を進めて行くにあたって、地域の声が根本になりますが、まだ、地域の意見をまとめきれていない印象があります。
【委員】	できるだけたくさん声を聞きたければ、一部の人の声を聴くだけではまもらないので、全戸配布でアンケートを取るしかないと思います。
【委員】	地域懇談会の参加年代を見ても40代以上が半数以上を占めています。これか

	ら子育てに入る若い人の意見を中心に集める必要があると思います。全戸配布だと高齢者の割合が高くなってしまいます。若い人にターゲットを絞って、漠然とアンケートを取るのではなく、具体的な案を示してふさわしいものを選択してもらう方式などが良いと思います。
【会長】	児童生徒及び保護者、これから学校に通わせる若い世代の合意形成が必要かと思っています。その中で、市内の公立保育園は4、私立の保育園と幼稚園が13ありますが、事務局で意見などありますでしょうか。
【事務局】	事務局としてもアンケート等でたくさんの意見を吸い上げる必要があると感じており、幼保小中に通わせている親からアンケートを回収する方法もあると思います。例えば、全員の親ではなく、年長に通わせている親やクラスなどを抽出した上でアンケートを取る方法が良いと考えています。子どもの意見は親のアンケートに子どもからの意見を書いてもらう欄をつくり、親子で話し合っ て意見を書いてもらうのが良いと思います。
【会長】	全員からアンケートというのが理想かと思いますが、事務量が膨大になりますし、年代にばらつきが出ますので、ある程度抽出して実施するという方法ですが、いかがでしょうか。
【委員】	年長に絞ると子どもが在学中に実現しない可能性が高いので、年長だけではなく、もっと小さい乳児を持つ親へもアンケートを取ると良いと思います。また、子どもの意見は今の学校や先生が好きか嫌いかにならないかが心配です。
【委員】	アンケートは年長に絞るのではなく子育て世代として広く対象にすると良いと思います。アンケートの中身も地区ごとで具体的な方向性を示して実施すると前に進めるのではないかと思います。
【会長】	アンケートの内容や取り方について様々な意見が出ましたが、たたき台を事務局で作成していただくことは可能でしょうか。
【事務局】	善処します。
【会長】	各学校については校長会などで意見を取りまとめていただく事もお願いしたいと思います。地域の方の意見はどのようにするのが良いでしょうか。例えば総代全員にアンケートを取る等がありますが、意見はありますか。

【委員】	地域の方はこれから年度末で総代会があるので、そこで意見を集める方法もありますが、まずはこの協議会で学校適正化の検討をしていることを周知する必要があります。アンケートに回答してもらいたいならまずはこの協議会の周知が必要になると思います。
【委員】	アンケートの全戸配布は難しいかもしれませんが、周知を兼ねて、広報の同時配布でチラシを作ってみるのはいかがでしょう。アンケートとは別で、意見をお持ちの方は意見を寄せてもらえるかもしれません。
【会長】	協議会の目的や適正化の方向性などをまとめたチラシでたくさんの方の目に触れて、ご意見のある方はお寄せ下さいというかたちをとるという意見がありました。
【委員】	今後のスケジュールは協議会の答申を受けて教育委員会が素案を作成することになるのですが、協議会の答申の具体性のレベルによってアンケートの内容も変わってくると思います。地域の合意形成も愛西市全体なのか、対象校の地域の事なのか曖昧であるので、はっきりさせる必要があると思います。
【会長】	協議会の最終意見が、大きな方向性だけだと地域の合意形成の具体的な意見がつかみにくいのではないかと思います。もっと具体的な、例えば学校名も示したものでないと答申にはならないのではないかと思います。次回で合意形成を図るためのアンケート内容についても話し合いたいと思います。 次の議題（４）学校づくりの基本的考え方については、配布の検討協議会資料２のうち「教育効果の向上を図る学校規模・学校配置とする。特に、過小規模校、児童生徒数１００人以下の学校は統廃合を検討する。」「統廃合をして新築する学校は、小中一貫教育や複合化の視点を導入する。」「児童生徒の通学上の肉体的・精神的な負担軽減のため、校区再編・通学区域制度・通学方法を検討する。」の３つが中心になるのかと思います。 続きまして、次回協議会の開催日時についてお諮りします。２月の開催を考えています。 （次回日程の調整）
【会長】	それでは、次回協議会は平成２８年２月２６日（金）の午前１０時からとさせていただきます。 それでは「第４回愛西市立小中学校適正規模等検討協議会」を終了いたします。長時間お疲れ様でした。